

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら上値を追う展開か

[11月22日からの1週間の展望]

| 週間高低 (カッコ内は日) | | 11月15日～11月19日 | | | |
|---------------|--------|---------------|------------|--------|---------|
| | 始値 | 高値 | 安値 | 終値 | 前週比 |
| ドル・円 | 113.93 | 114.97(17) | 113.76(15) | 114.34 | +0.45 |
| ユーロ・ドル | 1.1453 | 1.1464(15) | 1.1264(17) | 1.1352 | -0.0093 |

=====

| 国内株・金利 / 米国株・金利 | | 終値 | | 前週末比 | |
|-----------------|-----------|---------|-----------|-------|--------|
| | | | | | |
| 日経平均株価 | 29,745.87 | +135.90 | 日本10年債利回り | 0.077 | +0.001 |
| ダウ平均株価 | 35,870.95 | -229.36 | 米10年債利回り | 1.586 | +0.024 |

=====

<来週の主要経済統計等>

- 22日 米10月中古住宅販売件数
ユーロ圏11月消費者信頼感速報値
- 23日 NZ第3四半期小売売上高
独11月製造業PMI速報値、独11月非製造業PMI速報値
ユーロ圏11月製造業PMI速報値、ユーロ圏11月非製造業PMI速報値
英11月製造業PMI速報値、英11月非製造業PMI速報値
米11月製造業PMI速報値、米11月サービス業PMI速報値
- 24日 NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
独11月ifo景況感指数
米新規失業保険申請件数
米第3四半期国内総生産(GDP)改定値
米10月耐久財受注速報値
米10月個人所得・支出、米10月個人消費支出(PCE)デフレーター
米11月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米10月新築住宅販売件数
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(11月2～3日分)
- 25日 NZ10月貿易収支
日本9月景気動向指数改定値
独第3四半期国内総生産(GDP)確報値
●米国休場(サンクスギビングデー)
- 26日 豪10月小売売上高
スイス第3四半期国内総生産(GDP)

【前回のレビュー】インフレ警戒感を背景とした米長期金利の上昇傾向やドル高の地合いはしばらく継続するとみられ、ドル円は114円近辺での振幅を見せながら、徐々に上値を追う展開となるとした。

【ドル円は一時115円に迫る動き】

10日に発表された10月の米消費者物価指数が前年比+6.2%となり、約31年ぶりの高い伸びとなった。これを受けて、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げ前倒し観測が台頭している。その後の米10年債利回りの上昇などもあり、17日にドル円は115円に迫る114.96近辺まで上昇した。この水準は2017年3月以来の高値圏となる。ただ、115円の大台手前では売りに抑えられており、その後は上昇一服となった。ドル高の動きに調整が入り、114円台を中心とするもみ合いを見せている。

17日発表の10月の英消費者物価指数は前年比で+4.2%となり、事前予想の+

3. 9%や前回の+3. 1%を上回り、10年ぶりの強いインフレ率となった。これにより英中銀（BOE）の早期利上げ観測が台頭しており、ポンドドルが堅調に推移して、ドルの修正安の一因となった。ポンド高に追随して、ユーロも安値圏から緩やかに上昇している。

ドルは高値圏から調整しているものの、ドル高基調は継続している。ドルインデックスは11月9日の安値93. 875から17日には96. 241まで上昇した。その後は上げ一服となっているものの、95. 60近辺にあり、依然として高値圏での推移を見せている。

米10年債利回りも上昇傾向にある。11月9日に一時1. 41%台まで低下したものの、10日に強い米消費者物価指数を受けて、一時1. 587%台まで上昇。その後も上昇を続けて17日には1. 64%台まで上昇した。17日には1. 60%台を維持できずに1. 58%台まで低下すると、ドル円も115円手前から失速した。もっともその後も1. 58～1. 59%前後での推移となっており、大きく低下するような局面とはなっていない。

米国でのインフレ警戒感は根強く、早期の利上げ期待が高まりつつある。そうした中、米経済指標が堅調な結果を続けるようだと、ドルは底堅い地合いを続けて、ドル円は堅調な流れを維持することとなる。113円台に沈んだところでは底堅く、買いに支えられて上値を追う展開とみられる。ドル円の目先の予想レンジは、113. 50～115. 00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、22日に米10月中古住宅販売件数、23日に米11月製造業PMI速報値、米11月サービス業PMI速報値、24日に米新規失業保険申請件数、米第3四半期国内総生産（GDP）改定値、米10月耐久財受注速報値、米10月個人所得・支出、米10月個人消費支出（PCE）デフレーター、米11月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米10月新築住宅販売件数、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（11月2～3日分）、25日に日本9月景気動向指数改定値などがある。

【ユーロドルの下落基調は継続か】

欧州中央銀行（ECB）のラガルド総裁は、15日にユーロ圏の物価はこれまでの予想と比べて大きく上昇するとともに長く継続するとの見方を示した。ただ、来年には収束に向かうとの見解を示した。さらに2022年に利上げの条件が満たされる可能性は極めて低いとの見解を改めて表明した。

ユーロドルは下落傾向が続いてきた。米国での利上げ前倒し観測によるドル買いの動きに加えて、ユーロ圏では新型コロナウイルスの感染拡大傾向が続いており、ユーロ売りの動きにつながった。17日に1. 1260台まで値を崩している。ただ、その後はこれまでの下げの反動やポンド高へ追随したことで、1. 13ドル台を回復している。

FRBとECBの金融政策に関するスタンスの違いからドル買い、ユーロ売りの流れに傾きやすく、ユーロドルの下落基調は継続するとみられる。これまでの下げの反動から一時的に戻す可能性はあるものの、戻したところでは売りに押されやすくなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1. 1100～1. 1450ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、22日にユーロ圏11月消費者信頼感速報値、23日にNZ第3四半期小売売上高、独11月製造業PMI速報値、独11月非製造業PMI速報値、ユーロ圏11月製造業PMI速報値、ユーロ圏11月非製造業PMI速報値、英11月製造業PMI速報値、英11月非製造業PMI速報値、24日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、独11月IFO景況感指数、25日にNZ10月貿易収支、独第3四半期国内総生産（GDP）確報値、26日に豪10月小売売上高、スイス第3四半期国内総生産（GDP）などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。